

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成29年2月10日(金) 開 会 午後 1時30分
閉 会 午後 3時30分
2. 会 場 茅野市役所 704会議室
3. 出席者 市長 柳平千代一 教育委員長 吉田 一
同職務代理者 小林 智 教育委員 小林 俊恵
教育長 牛山 英彦
- 出席職員 生涯学習部長 木川 亮一 こども部長 牛山 洋治
企画総務部長 柿澤 圭一
学校教育課長 平出 信次 幼児教育課長 牛山津人志
生涯学習課長 小島 吉彦 文化財課長 守矢 昌文
スポーツ健康課長 鋤柄 敏 こども課長 両角 勝元
公民館長 矢島喜久雄
企画戦略係長 原田 和樹 教育総務係長 渡辺 雄一
教育総務係主事 丸茂 直樹
4. 傍聴者 1名

茅野市総合教育会議次第

平成29年2月10日（金）午後1時30分
茅野市役所 7階 704会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

(1) 平成28年度の主な取り組みについて

(2) 信州型（茅野市版）コミュニティスクールについて

(3) 意見交換

4. 閉 会

学校教育課長

只今から、茅野市総合教育会議を開催します。茅野市総合教育会議運営要綱 6 条に基づき、今日の会議を公開として開催してもよろしいでしょうか。

全員

異議なし。

学校教育課長

それでは今日の会議を公開として始めたいと思います。

はじめに、市長から挨拶をお願いします。

市長

今日は本年度 2 度目の総合教育会議になります。茅野市では、特色ある、他にはない教育をしていると自負しております。ベースは読書教育課と思いますが、そこに幼保小連携教育、小中一貫教育など様々なことに取り組んでいます。そこに教育委員、地域の人たちに協力していただいて茅野市の教育となっております。茅野市の教員は負担が大きいということをお聞きしますが、何事もそれなりの努力が必要になると思います。そのことに関して、先生のみならずみんなが孝巳を目指すという事が必要になります。3 年目になる縄文教育ですがこれはとても、人育ちには必要な教科だと思います。21 世紀を生き抜く力をいろんな角度から与えてくれる取組だと思います。また 29 年度から本格化する英語教育、現在計画策定を進めております ICT の取組、これも避けては通れないと思います。そんな世の中の流れに沿っていくには、レベルの向上を図っていかねばいけないと思います。教育委員にはいろんな立場から茅野市の教育について意見をいただけたらと思います。

それでは、議事 1 「平成 28 年度の主な取り組みについて」各課長から説明をお願いします。

各課長

【平成 28 年度の主な取り組みについて説明】

資料説明（資料 1）

《主な取り組み》

こども課

【ファミリー・サポート・センター事業】

【要保護児童対策地域協議会】

【発達支援センター事業】

幼児教育課

【保育士の処遇改善】

【茅野市保育園管理計画（案）の策定】

学校教育課

- 【中学校単位で、小中一貫教育を市内すべての小中学校で、次年度からスタートさせる。】
- 【学童クラブの多子世帯の経済的負担を軽減するため、同一世帯で 2 人以上の児童が同時に利用する場合において 2 人目半額、3 人目以降無料とする。】
- 【次年度から、副学籍制度をスタートさせる。】

生涯学習課

- 【こども読書活動応援センターの改革】
- 【図書館の開館時間の延長試行】

公民館

- 【お宝マップ作りを各分館に提案】
- 【若者向け講座「大人の放課後倶楽部」の新設】

文化財課

- 【国史跡尖石遺跡の保存管理計画の実施】
- 【縄文プロジェクト「識る部会」による、茅野市の縄文を識る取り組み】
- 【上原頼岳寺「高島藩諏訪家廟所」の文化財指定】
- 【八ヶ岳総合博物館の施設の充実】

スポーツ健康課

- 【運動公園の施設整備、補修を計画的に実施。本年度は、陸上競技場 3 種公認改修、広場野球場スコアボード改修、プール塗装工事を行った。また、10 年間の改修計画を策定した。】
- 【スポーツ活動充実のため、健康増進と体力づくり、元気なまちづくりの一環として各種大会を開催】

市長

各課の平成 28 年度の取組について説明していただきました。この保育園の管理計画につきましては、(3) 意見交換の中で意見をいただきたいと思います。それを除きましては、教育委員の皆さまから意見をいただきたいと思います。

小林（智）委員

スポーツ健康課で様々な大会の運営をしておりますが、その中で縄文マラソンの出場者減少があるということでした。ただニュース、新聞等を見ていると参加している方はまだまだたくさんいるという事でした。例えば、縄文の里マラソンで参加しにくい何か原因があるのか、というアンケートは取っていたりしますか。

スポーツ健康課長

アンケートについては毎年行っております。ネックな部分は直接会場に車で行って止めら

れないということが1番かと思います。その点につきましては、運動公園の駐車場から頻繁にシャトルバスで送迎を行っております。しかし直接自分の車で会場まで行きたいという方もいますので難しいところでもあります。

市長

コースもいいですし、走っていただいた方は満足していると聞いています。集客すると、コースは沿道が畑なので、市街とは違い声援などが無いかと思います。諏訪マラソンなどでは、沿道にたくさんの方がいますし、小布施マラソンも同じかと思います。いろんな場所で応援してくれるという状況は難しいです。マラソンをただ走るために参加している人にとっては、コース的にも良いのかもしれませんが、市民感覚でマラソンに参加する人たちにとっては、声援などの点が物足りないのかもしれませんが。

また集客という話になりますが、尖石公園あそこをいろんな使い方をしていくという事には、緩衝帯や多目的広場の設置等があります。ただ遺跡となっておりますので、簡単には掘ったりできませんので、課題にはなってくるかと思います。

小平委員

スポーツ健康課のスケート大会などの開会式に参加させていただきました。参加している子どもたちはきちんと整列して並んでいますが、その後ろの保護者たちがきちんと整列できていなく、気になりました。これはスポーツ健康課というよりも、各協会の運営する方の問題化と思いますが、あまり強いてしまうと親御さんたちも引けてしましますが、地道に親御さんたちも子どもの後ろに参加してくださいというような言葉がけが必要かなと思いました。

市長

これはとても大切なことだと思います。現に3年前ぐらいにスケート大会で子どもはきちんと並んで静かにならんでいるのに、親がガヤガヤしているので、私が怒りました。それ以後司会の方で、必ず保護者の方にもきちんとしてもらおうようにしています。とても大事なことなので嫌われてもいいので、強く推し進めるというのもありかと思います。

教育長

前回のスケート大会の時には、主催者の方から一言声を掛けたら結構変わりました。1月の最初の2回目ぐらいまでは、保護者の方も気持ちは子どもと一緒に頑張っていて苦勞してきているのですが、儀式に立った時に少し落ち着くことができない。私達の工夫、声がけで乗り越えていけるかと思います。

小林（俊）委員

支援をしなければいけない子どもが増えてきたかと思います。それに伴って支援員の人数の確保が難しいという事を聞いておりますが、学校によって支援員と親御さんの考え方が違うということも耳にしました。学校によって支援の差が出ているのではないかと思いますので、市の方も予算を充てたりして支援員の確保と支援員の養成に力を入れていた

きたいです。

学校教育課

支援員につきましては、学校教育課でお願いをして対応していただいている状態ですが、要望を取ると200人近い子どもが配慮、対応が必要な子ども達です。その要望から支援員さんの配置が必要かどうかを私たちが、観察をして基準を元に支援員を配置していくという事になります。1人1人の子ども達の症状が、もちろん人によって違いますが、重くなってきているというのが事実です。そういった中で着ければいけないのですが、保護者の方との合意形成などもあって保護者は「支援員をつけてくれると思ったのにつけてくれない」だとか反対に、「私の方はつけてくれなくても」というケースもあります。今回昇降機を学校につけました。教育委員会としては、昇降機があれば階段の登り降りが楽になると思いき、配置をしましたが、この昇降機では子どもを乗せて運ぶには十分ではないのではないかということが合意形成をとれずに行ってきた経過もあります。何か教育委員会の方も子どものために行いますが、しっかりと合意形成をとっていかねばと思う事例でした。付いていただく支援員には、特に資格を持った方ではなく、一般の方ですので十分な支援ができる人と、自分が想定していたより支援が重くうまく支援ができないという方もいます。支援員の養成も大事かと思いますが、かなり要望が多くなっていきながら、学校教育課で次年度は支援員を4名増員でやっていこうと考えております。また学校との連携を取りながらしっかりとした支援を行っていきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

市長

支援員の確保など課題等もあるかと思いますが、支援員の養成等を行いつどの学校でも平等な支援が行えるよう配慮をお願いします。

公民館で行っている、「大人の放課後倶楽部」これは何人が参加していますか。平均年齢などはどうなっていますか。

公民館長

メンバーが39名となっております。年齢は、一番若い方が20歳、一番上の方が36歳ぐらいとなっております。中には夫婦で参加しているような人たちもいます。受講生が考えた講座は遊びの要素のものが多かったのですが、1つ1つの講座が最後は学びに繋がっているという事を感じました。今年度は次の閉校式で終わりになりますが、来年度もまた募集を掛けたいと思います。

市長

次に議事2「信州型（茅野市版）コミュニティスクールについて」学校教育課長お願いいたします。

学校教育課長

【概要】

茅野市教育委員会は、学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みを持った地域とともにある学校づくりを目指すため、既にある学校ボランティアを生かし、誰でも参加できるように信州型コミュニティスクール（茅野市版）を構築します。

市長

ご意見、ご質問がある方はお願いします

矢崎委員

学校評議員との関係と今後について、という話があり学校評議員会の業務を段階的に信州型コミュニティスクールに移行していくということですが、このコミュニティスクールは来年度から実施ということでしょうか。

学校教育課長

まだ問題点等があると思いますので、来年度は試行という形になるかと思います。地域によっても、学校の評議員さんがそのコミュニティスクールに入った時にうまく馴染めるかという問題点や評価をする場合、評価される側の中に入ってしまうと、適切な評価ができなくなってしまうことがあります。そこらへんの所を地域の中で見定めてもらい検討していただきたいと思います。あくまで評議員の仕事とコミュニティスクールの仕事で同じような仕事があるのであれば、一緒にやればいいのかと思いますが、そうでなければ強制的に一緒にする必要はありませんので、別々ということでも良いと思います。

小林（智）委員

以前にも伝えさせていただきましたが、コーディネーターがやはり必要になってくるかと思います。各地域のコミュニティセンターに職員の方がいるのでその人たちを活用しながら、という事になると思いますが、実際地区コミュニティにいる職員の方が、このコミュニティスクールのコーディネーターとして動いていくのかそれとも、別の人を探すのか、どんな形で考えているのでしょうか。

学校教育課長

コーディネーターというのは専門的な知識がなければいけない、学校のことも知っていなければいけないということがありますので、学校職員のOBの方を見つけていただく、もしくは紹介して、教育に精通しているかたにコーディネーターをお願いしなければ厳しいかと思います。私の方からも各学校に地域にいるOBの先生だとかを探していただきということをお願いしています。コミュニティセンターの職員がコーディネーターとなると厳しいと思っています。

市長

教育総務係長、元コミュニティセンターの職員としては、どう思いますか。

教育総務係長

地元どんな人がいてどんなことができますよ、ということを経理先生にお伝えする事や、紹介することは可能ですが、コミュニティセンターの職員がコーディネーターを行うとなると学校の中の知識等が無い状態からのスタートですので、厳しいかと思います。

教育長

教育委員会の方では、例えば金沢小学校でコーディネーターを探すといったとき、教育委員会の方から元金沢小学校の校長先生だとかを探して紹介するといった支援はさせていただきます。ただ1番大切なことは校長先生が地域の中に入り、地域のそういった方と親密になってくださいということをお伝えしています。そういったものがコミュニティスクールだと思います。なので、教育委員会からお願いという形はできるだけ、避け学校から親密になり一緒に行くという形になっていただきたいです。

小林（智）委員

やはり最初の始めたばかりの年はコーディネーターの存在によって大きく変わると思います。コーディネーターの責務が大きいと思います。

市長

今は永明がコミュニティスクールを行っているに1つの例がありますので、それをうまくそれぞれの地域にあった展開に持っていければ、1番良いのではないのでしょうか。

学校教育課長

永明はいい見本になっておりますので、それぞれの地域にあったコミュニティスクールを展開してもらえればと思いますが、ただ各校理先生もどういった部会作ってどのような関わりを持つか、姿が見えてきていると思います。かなり進んでいる学校もありますので、来年度はそんなようなところも要綱として入れていただければ良いと思います。

市長

PTA が本来的な機能を果たせばコミュニティスクールのような役割になるかと思ひます。コミュニティスクールがいないという訳ではないですが、たとえば、資料の中にコミュニティスクールの役割の中に学校支援ボランティアというものがありますが、PTA の人達がこれを行えばいないとなってしまうので、学校評議員だけが、コミュニティスクールでどのような位置づけにしていくかではなく、PTA も茅野市ではどういふ風に位置付けていくのか想定しなければ、いけないかと思ひます。少し話が違ふかも知れませんが、北部中学校が荒れていた時に、民生児童委員の方たちが「相談してもらえればいふだけでも協力したのに」ということを言ってくれてました。その時の北部中学校はおそらく地域の民生児童委員の人達と繋がりがないかと思ひます。問題があった時に、いく

らでも支援してあげるとい人がいたわけですから、地域のそういった形とうまく付き合っていく体制にしないといけないと思います。ちょうどこれを機会にいろんな立場を切り分けて組み立てていくということが必要かと思ひます。永明小学校がやっけてきていて、とてもうまくやっけてる。その永明小学校の PTA の立ち位置、関わり方はどうなのか、ということを検証してみれば、答えは出てくるかもしれませんが。このコミュニティスクールを設置するにあたっていろいろな課題を意識してもらいたいと思ひます。

次に議事 3「意見交換」各委員お願いいたします。まず最初に、保育園管理計画について意見があればお願いします。2月14日の保育所運営審議会に修正案ということでお諮りしたいと思ひますので、リノベーション、統廃合の部分についてご意見をいただけたらと思ひます。

矢崎委員

笹原保育園の反対する人がいるなかで1番ネックな部分は何なのでしょう。わざわざ人が少なくて良くてことで引越してくる人も多そうなので、反対の1番の理由のようものが分かれば教えていただきたいです。

幼児教育課

地域振興を考えた上で、保育園はその地域にとって核となる施設ではないかと思ひますので、そういう視点の発言が多かったと思ひます。また笹原保育園は、地元の人達だけでなく湖東と北山の他の地区からも入園者がいます。少数の保育園の良さを否定するわけではありませんが、公立保育園として考えると運営が厳しいということがありますので、これからは地域振興を含めた議論をしていく中で、地域の方々に理解が得られるような対応に努めていきたいと思ひます。

矢崎委員

見通しとしては園児の数は今後、徐々に減るのか、それとも平行のままなのかどちらでしょうか。

幼児教育課長

実は昨年度3歳児が12名ほど入園をしました。それまでは3人から5人の間でしたので、例年に比べて倍入園したということがありました。この4月に入園を希望した方は4名くらいです。もう少し待たないと分かりませんが、昨年度増えたという事実はありましたが、一過性のものではないかと思ひます。

市長

少人数でやることにより、大勢の所には馴染めない子もいますので、そういう子を持つ親御さんにはとてもありがたいと思ひます。また地元により近いところにあることで利便性もあります。移住を促進していくときに、小規模の保育園があつてそれを売りにもなるかなと思ひます。この3つが反対の大きな理由と思ひます。それぞれ、ごもつともな意見ですが、幼児教育課長も言ったように全体最適、部分最適をどのようにコントロール

していくか大事になると思います。また保育士の人達が不足しています。私も保育園へ子どもの様子を見に行くことがあります。3歳児の子どもを1人の先生が20名の担任となっていました。とても大変な状況でした。できれば2人で20名をみるというようにしてあげたいと思いました。もちろん保育士を増やしていく努力もしなければいけません。より多くの子ども達にいい保育をしてあげるためには、統廃合など仕方ないことだと思います。大きい保育園だから笹原保育園のような手厚い保育が行えないかということではないと思いますので、そういうために、保育士の確保、質の向上が必要になるかだと思います。そういった中で地元の皆さんと十分に話し合っていたきたいと思います。

こども部長

笹原保育園の統廃合は今回初めて出た問題だけではなく、過去にも2度保育所運営審議会で検討してくれないかということがありました。

市長

無いよりはあった方が全然良いわけですから、納得してもらうには時間が掛かるかと思えます。ただ逆の見方からすると、とても良い保育をしているから統廃合はやめてくれという話ですから、そういった見方をすると保育士先生も頑張ってくれていて、嬉しいことだとは思っています。

小林（俊）委員

いろんな人の声の中に、市は一生懸命笹原の近くに移住を誘致しているのに、その近くの保育園を潰してしまうのは、どうなのだろうかという、意見もあります。

市長

湖東の地域には、湖東保育園もあるわけですから、保育園の場所は変わってしまいますが、移住して笹原に保育園が無ければ保育ができない訳ではない、そんな風に考えていただきたいと思えます。

小平委員

今保育園に通っている方と統廃合実施の6年後の時点で、人数が増えようが統廃合するってというのは決まったということでしょうか。

市長

決まっていませんが、想定しての案ということになります。極端に言えば湖東地区でいっぱい移住してくれる人も増えて、新しい保育園が必要になってくるそういった場合、当然湖東に限らず、そういう考えもしなければいけないと思えます。

小平委員

今の現状で金銭的にも大変ということや、他にも保育士の問題などありますが、人口の増加、利用者の増加があれば、そういった考えもあるというような話を聞いて安心しまし

た。そういうことも地域の方も知りたいのではないかなと思います。

幼児教育課長

先日みどりヶ丘保育園の説明会に行ってきました、今みどりヶ丘保育園の隣がちょうど更地になっておりまして、あるお母さんがその更地が宅地開発として分譲されて若い家庭がたくさん入ってきたらどうするのでしょうか。という質問がありました。保育をする責任は市にある訳ですから、市が当然保育ができるよう対応しますのでご安心くださいということをお伝えしました。なのでそういったことには臨機応変に対応していきたいと思います。

小林（智）

笹原保育園は、どちらかというと利用者より地域の気持ちが大きいかと思います。自分が通っていた保育園はもうありませんが、保育園の思い出は、建物よりも環境の方が多いと思います。今少人数で良い保育をしてもらっているということですが、多い人数でしかできない保育などもあると思います。子どもたちにとってどちらが良いかを考えていかなければいけないと思います。

幼児教育課長

保護者の思いと、地域の方の思いがあると思います。保護者の方は少人数で面倒を見てくれるということも魅力があると思います。ただ須栗平の子どもたちは、ほぼ湖東保育園に通っています。これは湖東保育園に通った方が通勤途中で送り迎えができることと、保育の時間も湖東保育園の方が長いということがあると思いますので、実際の利用者と地域の方とでは少し思いがずれているかと思います。その部分については、しっかりと地域の方と説明して、納得していただけるようにしたいと思います。笹原保育園は地域の方型がいろいろと協力してやっていたので、そこも笹原保育園の魅力化と思いますが、そういったところは他の保育園でも受け継いでいかなければと思います。

教育長

私も地域の人達の気持ちも分かります。私は長野の保育園を出ましたが、未だにその思い出があります。今でもその保育園はあって、やはり自分が卒業した保育園を見ると嬉しいです。ただ質の高い保育を考えた時、大事なことは環境づくりがとても大事だと思います。どうやって先生が環境を作ってそこで子ども達がどうやって成長していくかです。その環境を1年間縄文で通した保育園もあり、子どもはすごく育っていました。ただそういったことをやる時に少人数の保育園ではできないと思います。またこれから障害を持った子、早朝保育など、様々な要望に対応できるようにするには、それなりの規模の保育園でなければ対応できないと思います。こういった体制を整備していくために統廃合を今回検討しなければいけないと思います。

市長

他に保育園のこと以外でも意見等があればお願いいたします。

何もないようなので私から1件あります。公民館の方でマップを作ったそうですが、活用がポイントになると思います。活用している例はありますか。

公民館長

城山分館のお宝マップは景色のいい坂が出てくるかと思いましたが、実際に出てきたのは鬼場城でした。城山の由来にもなった鬼場城をマップにしたものを使って地域の歴史に詳しい方を招いて鬼場城散策をしました。

市長

ぜひ次はそれを使って活動できれば、1番いいかなと思います。私も各分館で作ってもらったマップを見て、各地域を散策したいです。

矢崎委員

来年度台湾から英語の先生が来るそうですが、こちらの英語の先生とはどのように連携して行うのでしょうか。

学校教育課長

最初の1ヶ月は学校を回ってもらって雰囲気を感じ取ってもらい茅野市の授業を理解してもらいたいです。その台湾の先生が、日本の英語の先生、ALTの先生とどのような授業を行うか話し合っ、実際に授業を行ってもらいたいです。主に小学校を回るようになるかと思えます。

小林（俊）

最近、テレビを見ていると頭は良いのですが、人としてどうなのだろうという事件を起こす人が増えてきていると思います。こどもは育った環境がとても大事だと思いますので、学習だけに力を入れるのではなく、心の方にも力を入れてもらいたいです。

市長

はやり心を育てるには複数の人間が関わっていくことが大切だと思います。大家族の家庭だと、誰かの意見に反対するような場面を子どもは何回も見ると思えます。核家族が進んでいる今、そういった家庭は少ないと思いますので、地域がどれだけ関わっていくかが大切だと思います。

教育長

家庭もそうですし、先生もそうですが、愛情がある中で育ったこどもは心も育っていると思います。家庭で愛情が欠けているのであれば、先生、地域で愛情を注いであげればいいのですが、現実には、家庭で愛情が注がれない子どもはどこでも相手にされないということもあります。とても悲しい事実ですが、茅野市では家庭相談員の方が、一件、一件相談を行っていますので、それを充実させることと、学校教育でも、読書、教科学習にとられない、小中一貫してきた心の教育この3つを頑張っていきたいと思えます。

市長

みんなでアプローチしていくことが大切かと思えます。

まだ話したいことはたくさんあると思いますが、時間になりましたので、ここでうちきらせていただきます。

以上で議事を終了します。

学校教育課長

ありがとうございました。

以上をもちまして、茅野市総合教育会議を閉会します。